実はコレ。浜松ゆかりのモノなんです。

フロムはままつ

from HAMAMATSU!

暮らしに身近な製品・技術・サービスで
浜松発や浜松の企業が
関わっているものをピックアップ！

国産初のマーカー「マジックインキ」。何にでも書ける画期的な筆記具として普及した。それまでは墨汁で筆書きや万年筆が主流だった。

マーカーのペン先

テイボー製品が占める割合

国内	世界
約70%	約50%

※2018年 テイボー調べ

帽子のフェルトから生まれた国産第一号のフェルト製ペン先

普段の授業でもよく使う蛍光ペンやサインペン。それらのペン先のほとんどは、実は浜松に本社を置く「テイボー株式会社」が作っているものだ。

ペン先技術を使った製品においては世界トップシェア。国内および世界50カ国に向けて毎月約4億5千万本を生産している。

国内で初めてマーカーが作られたのは戦後まもなくのこと。ある商社の社長がアメリカへの産業視察から持ち帰ったペンに、大阪の文具メーカーが改良研究を加えて、国産マーカー第一号が誕生した。

マーカーは毛細管現象の原理をペン先に応用したもの。そのペン先の素材として白羽の矢が立ったのが、当時、紳士用の帽子を製造していたテイボーのフェルトだった。

文房具の部品の一つとして、多様な形状、太さ、耐久性、書き味が求められるペン先。北区新都田にある研究棟では今も最先端の研究開発が進められ、「研究者以外の従業員は立ち入り禁止」だという。

フェルト製をはじめ、合成繊維製、プラスチック製といったさまざまな素材のペン先を生産。その種類は累計約3000アイテムに及ぶ。

写真は都田技術センター

テイボー株式会社〈本社工場：中区向宿一丁目〉

1896年、帝国製帽株式会社として設立。フェルト製の中折れ帽を製造し、1964年東京オリンピックでは同社製の帽子が日本選手団の帽子に採用された。戦後、紳士用帽子の需要が減少すると、フェルトの加工技術を生かしてペン先の開発・製造を開始。1981年に現在の社名に変更した。ペン先製造で培った技術を応用し、コスメ製品や医療用カテーテルの製造も行っている。

おそろいの帽子をかぶって、（左から）中心メンバーの藤原真紀子さん、吉田ゆかさん、代表の鈴木友美子さん、島津順子さん、片山友見さん。

大人の部活 地元の仲間 #5

〝大人リア充〟を満喫するサークルを連載で紹介します

月1回のマーケット

浜松サザンクロス　ほしの市

シャッター商店街に市が立つ。

JR浜松駅南口から徒歩1分。人通りはまばらで、シャッターが下りたままの店が目立つ「砂山銀座サザンクロス商店街」。このアーケード街に、月に一度、マーケットが現れる。

マーケットの名称は〈ほしの市〉。手作りアクセサリー、洋服、ドライフラワーなどの作家や、自家製ドリンクやお菓子の店が軒を並べる。アイリッシュ音楽の生演奏が始まり、買ったばかりの大きなかき氷を手にした家族が足を止める。

「『子どもたちに誇れるまちに』という思いを共有できる人を出店者としてスカウトしています」と話すのは、このイベントの代表者、鈴木友美子さん。

商品のクオリティと、地元にゆかりがあることにこだわって、昨年4月から毎月開催している。

「子どもや若者たちにとって、このマーケットが思い出の場所や時間になったら、きっとこの町がもっと好きになるはず」

単に物を売り買いするだけでなく、人と人とのつながりが生まれるマーケット。

「出店者は子育て中の人や、副業という人などさまざま。みんながこの場所をステージに、やりたいことを全力で楽しんでいて、それがじわじわと周りやお客さんに広がっている感じです」（鈴木さん）

真剣に、でもおもしろがりながら。この日の〈ほしの市〉は、身動きが取れないほど大盛況だった。

〈ほしの市〉は毎月第2日曜に開催。全長100メートルほどのアーケード街に約50軒が出店。